

病害虫発生予察注意報第 1 号

佐賀県

果樹カメムシ類については、令和 2 年 5 月 19 日付け病害虫対策資料第 2 号において防除対策について注意喚起を図ってきたところです。しかしながら、一部の果樹園で果樹カメムシ類の飛来が確認されており、加えて、本年はヒノキ毬果が少ないことから、今後、本虫の果樹園への飛来がさらに増加し、被害が生じる恐れが高まっています。

つきましては、以下を参考に、防除対策を確実に実施してください。

作物名：果樹（カンキツ、ナシ、カキ等）

病害虫名：果樹カメムシ類



1. 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) 現在の発生状況

(1) 県内に設置している予察灯およびフェロモントラップで、果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）の誘殺虫数が平年より多く推移している（図 1）。地点別にみたトラップでの誘殺虫数は地点間差が大きいですが、一部で平年を大きく上回っている（図 2）。

(2) 5 月上旬以降、一部の果樹園では、すでに果樹カメムシ類の飛来を確認している。

2) 今後の発生予想

(1) 6 月 2～4 日に県内 5 地点のヒノキ樹における毬果の結実状況を調べたところ、着果程度は 2 地点が「やや少」、1 地点が「少」、2 地点が「極少」であった。このように、カメムシ類の餌となるヒノキ毬果が少ないため、今後、果樹園への飛来が増加することが予想される。

(2) 福岡管区气象台が 6 月 4 日に発表した九州北部地方の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想されており、今後、カメムシ類の活動が活発になる可能性が高い。

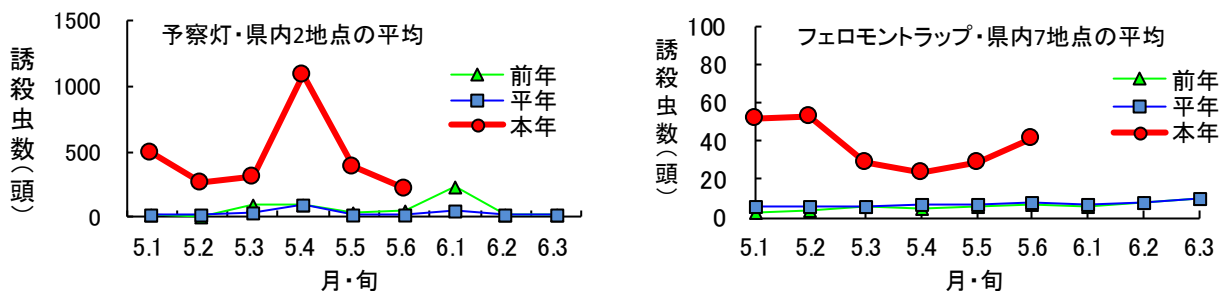


図 1. 県内に設置した予察灯およびフェロモントラップにおけるカメムシ類の誘殺虫数

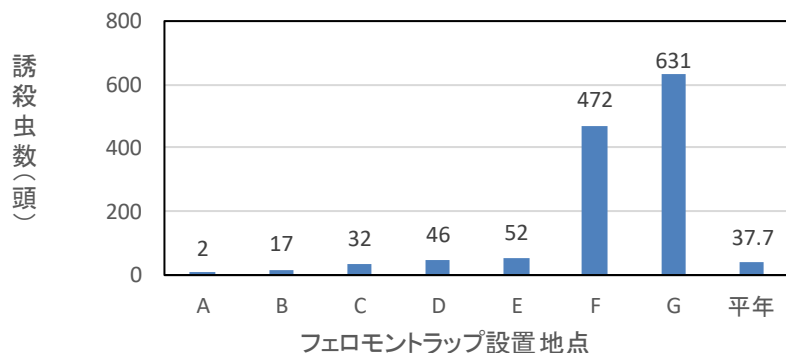


図2 . 地点別にみた果樹カメムシ類のフェロモントラップでの誘殺虫数 (5月1~31日の合計)

注) 地点A,B,Eではデータの欠測期間あり

3 . 防除上注意すべき事項

- 1) 飛来状況は地域や園地によって異なるため、園内外をこまめに見回り、早期発見に努める。
- 2) 果樹園への飛来を認めたら、合成ピレスロイド系薬剤又はネオニコチノイド系薬剤で直ちに防除を行う。防除薬剤は、佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびきを参照する。
また、地域全体で一斉防除を行うと高い防除効果が得られる。
- 3) 合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤の残効期間は10~15日程度である。なお、ネオニコチノイド系薬剤は、30~50 mm程度の降雨で防除効果が低下するため、散布後に同雨量以上の降雨があった場合は、再散布を行う。
- 4) 施設栽培では、開口部に防虫ネット(4ミリ以下)を設置する。
- 5) 防風樹としてヒノキ・スギが植栽されている場合は、毬果の結実の有無を確認し、状況に応じて刈り込む。
- 6) 今後の発生状況については、当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にする。
(農業技術防除センターHP:<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>)

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085